

外国人看護師の理解 のための情報提供の検討

★ 広島国際大学看護学部看護学科
菅野 貴文(西川 まり子ゼミ)

背景

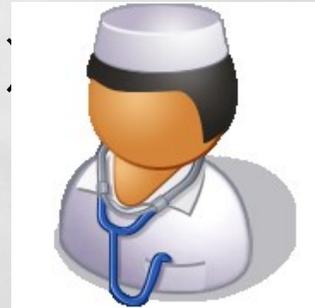
◆EPA(経済連携協定)による外国人看護師候補者の受け入れ

⇒外務省によるとEPAとは

「貿易の自由化に加え, 投資, 人の移動, 知的財産の保護や競争政策におけるルール作り, 様々な分野での協力の要素等を含む, 幅広い経済関係の強化を目的とする協定」

⇒現在EPAにより外国人看護師候補者を受け入れ(下記表参照)

⇒EPAにより**外国人看護師と接する患者が増加**する可能性



EPAに基づく外国人看護師候補者の受け入れ人数(厚生労働省HPより)

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	累計
インドネシア	104	173	39	47	29	48	41	481
フィリピン	-	93	46	70	28	64	36	337
ベトナム	-	-	-	-	-	-	21	21
合計	104	266	85	117	57	112	98	839

背景

◆超高齢社会による看護師の需要増大

現在

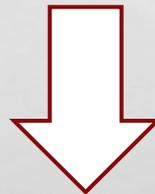
平成24(2012)年の高齢化率⇒24.1%

将来推計

平成47(2035)年⇒33.4%

平成72(2060)年⇒39.9%

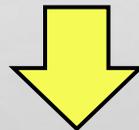
高齢化による医療の需要増大により、看護師の需要も増大



さらに外国から看護師を招く可能性

目的

- ◆宮野・丹野(2008)の調査では, 外国人看護師から外来でケアを受けることに不安を感じている外来受診者は90人中49人と約半数
 - ◆竹内(2011)の調査では, 実際に外国人看護師と接した患者・家族の80%が「日本人とあまり違いはなかった」, 「なかった」と回答
また, 89%の人が「困ったことはなかった」, 「なかった」と回答
- ⇒これらのことから, **外国人看護師と接する前に不安の軽減を図ることが円滑にコミュニケーションとるうえで重要であると考えられるが, 今までに不安の軽減と情報提供に関する研究は見当たらない世界的にも少ない**



具体的な外国人看護師への不安の軽減の方法を検証

目的

- ◆ Durontら(2004)の研究によれば,
不確定性は日本人に対するよりも外国人に対するほうがより高い
- ⇒このことから, 外国人看護師に対する**情報提供**が不安の軽減に作用すると推測

そこで

外国人看護師の情報提供により不安が軽減するか検証

仮説

外国人看護師の情報提供により不安が軽減するか検証

A群(介入群)

外務省などのHPを
基に作成した詳しい
情報

B群(対照群)

中国新聞の記事を
基に作成した新聞の
見出し程度の情報

仮説

1. A群, B群どちらも不安が軽減する.
2. A群はB群よりも不安が軽減する.

研究概要

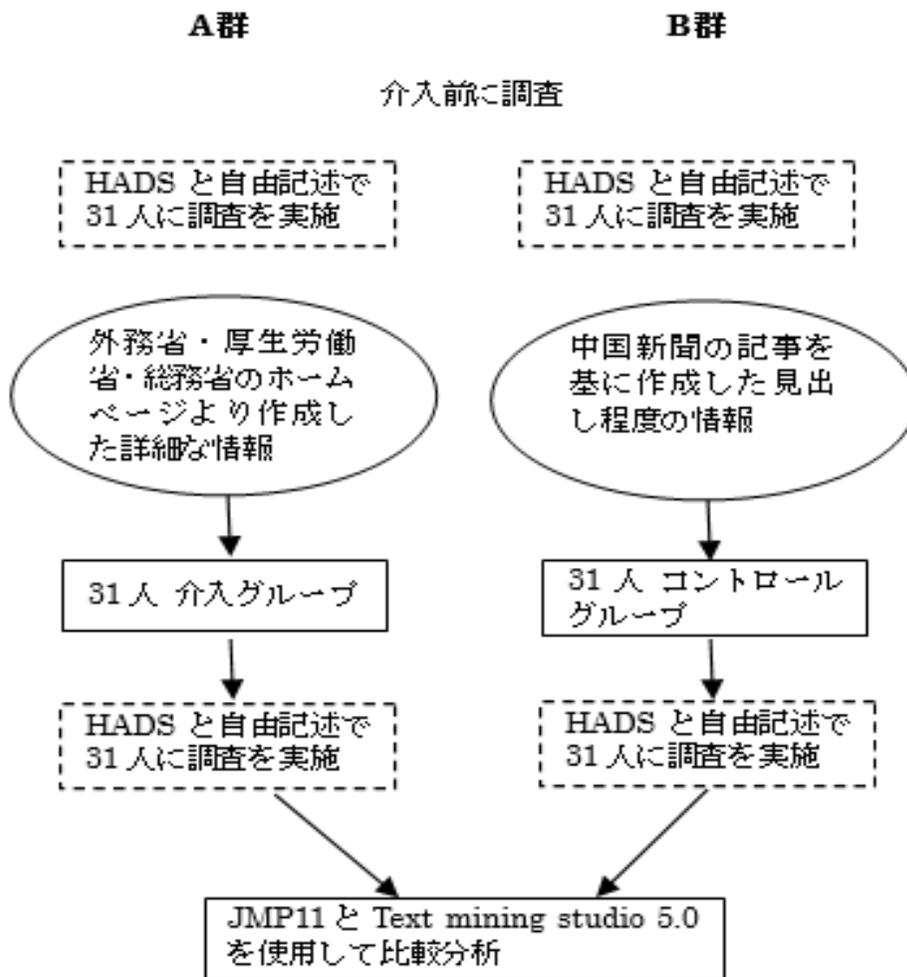


調査対象者に自分自身が入院し、担当の看護師がインドネシア人の頭に白い布を被った女性であることを想定。その際の気持ちを自記式質問紙のHADSと自由記述欄に回答。

介入前と同様に、HADSと情報提供を受けたあとの気持ちを自由記述欄に回答。

H 大学看護学部の 4 年生 62 名
HADS (Hospital Anxiety and depression scale), 自由記述

2つのグループをランダムに分配

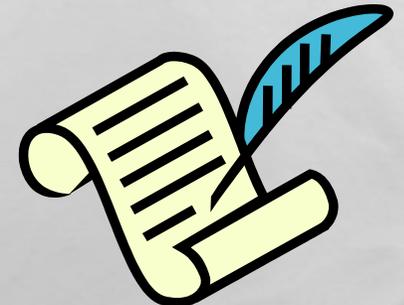


研究期間

・2014年4月10日～10月13日

調査対象

- ・H大学看護学部の4年生
 - ⇒コンビニエンス・サンプリング(便宜的抽出法)
 - スノーボール・サンプリング(雪だるま式抽出法)
- ・年齢
 - 21～23歳(平均21歳, 標準偏差0.59)
- ・性別
 - A群(男性5名, 女性26名)
 - B群(男性5名, 女性26名)
- ・外国人看護師との接触の有無
 - A群(あり1名, なし30名)
 - B群(あり2名, なし29名)



調査方法

不安の評価: HADS (Hospital Anxiety and depression scale)

- ZigmondとSnaith(1983)が開発した外来患者の不安を測定する自記式のテスト.
- Mykletunら(2001)が, ノルウェーで行ったHADSの信頼性の研究における大規模調査(n=65648, 内有効回答51930)でCronbach α 係数は0.73-0.85の範囲にあり信頼性を確認.
- 高松ら(2001)の研究から, 入院中の患者にも適用できることが判明.
- 東ら(1996)のHADSの日本語版の信頼性と妥当性の研究より, 男性と女性の不安尺度と抑うつ尺度のCronbach α 係数は0.72-0.87の範囲にあり信頼性があることから, 日本語版HADSでも信頼性があると判断.
- 宇品(2011)が翻訳したものを使用.
- HADSは不安(Anxiety)7項目, 抑うつ(depression)7項目の計14項目で構成.
「0=そう思わない」, 「1=あまりそう思わない」, 「2=そう思う」, 「3=大変そう思う」の4段階で不安を評価. 合計点が高い程, 不安が強い.

提供した情報の内容

【介入群：A群（厚生労働省，外務省，総務省のHPを基に作成）】

1. あなたの担当看護師について

あなたのケアをする看護師は来日して4年目で，下記の研修を受けて，日本での正看護師の資格を取得した者です．資格を取得したのは1年前で，この病院で資格をとるまで2年半を看護補助として，資格取得後1年を正看護師として働いています．

2. インドネシアについて

インドネシアは東南アジアの，図の1の斜線の部分です．言語はインドネシア語で，イスラム教を信仰する人が約9割です．イスラム教の女性は頭と手以外肌を露出することを禁じているため，ヒジャブと呼ばれる布で頭を覆っています．教育制度は，日本と同じく小学校6年，中学校3年までが義務教育であり，成人の識字率（文字が読める人の割合）は93%です．

3. インドネシアの看護教育と看護師制度

国家試験による資格認定はなく，看護教育は高卒後の職業教育課程3年と学士の修了者のみに限定して正看護師の資格が付与されています．ただし，EPA（経済連携協定）により選抜される者にはインドネシア看護師協会が行う試験が義務化されています．

4. 日本での看護研修について

EPAに基づき来日する看護師候補者は，インドネシアで2年間の看護師業務経験のある者が前提となります．その選抜者は，まず母国で6ヶ月の日本語の基礎教育を受け，来日して更に6ヶ月の日本語の教育を受けます．その後，受け入れ施設で看護補助として働きながら日本の看護知識や技術を学びます．そして，日本語も継続して学び，国家試験を受け，免許取得後は看護師として働きます．



A群に提示した、インドネシアの地図

【対照群：B群(4月2日付の中国新聞の記事も基に作成)】

1. あなたの担当看護師について

あなたのケアをする看護師は来日して4年目で、日本の正看護師の資格を取得した人です。

2. 外国人看護師の合格率

外国人の看護師国家試験の合格率は10.4%でした。

3. 免許を取るまでの日本での研修内容

母国で半年間と日本で半年間の語学研修を受けます。

4. 経済連携協定(EPA)

日本はEPAに基づき2008年度以降、インドネシアとフィリピンから看護師と介護福祉士の候補者を受け入れています。

倫理的配慮

- 個人の特特定ができないように無記名で実施
- 情報の漏洩, 滅失または棄損の防止
- 調査対象者に外国人看護師に対する偏見を植え付けないよう, HADSは不安を評価する尺度であると伝えず, 心理調査と伝えた



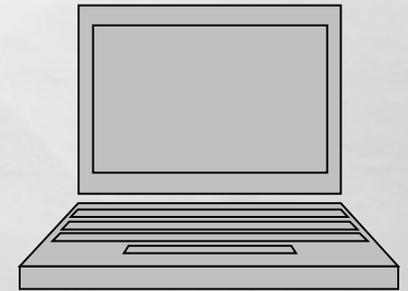
分析方法

【HADS: JMP 11を用いて分析】

- ①A群の情報提供前後の比較⇒ウィルコクソン符号順位検定
- ②B群の情報提供前後の比較⇒ウィルコクソン符号順位検定
- ③A群とB群間の情報提供後の比較⇒ウィルコクソンの順位和検定

【自由記述: Text Mining Studio 5.0を用いて分析】

- ①A群の情報提供前後の想いの比較
⇒単語頻度解析&ことばネットワーク
- ②B群の情報提供前後の想いの比較
⇒単語頻度解析&ことばネットワーク



A群(介入群)



B群(対照群)



情報提供



・情報提供前と後で不安の増減に変化があったか

・情報提供前と後で気持ちに変化があったか

結果：情報提供前後のHADSの比較

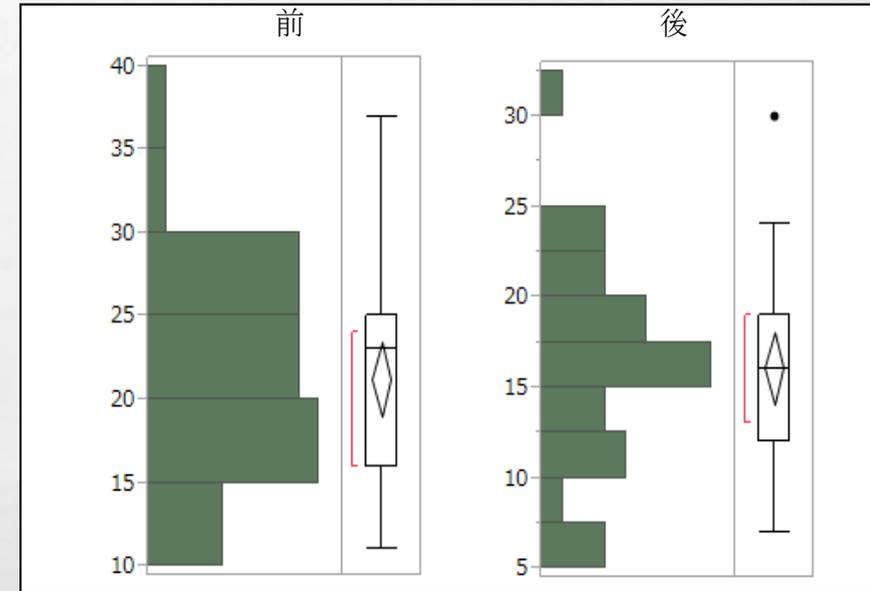
A(介入)群の情報提供前後の比較

最高値を42点とした時、

情報提供前の合計点の
平均値は 22.23, 標準偏差は5.04

情報提供後の合計点の
平均値は15.97, 標準偏差は5.65

情報提供前後の合計点について
ウィルコクソンの符号順位検定を
行ったところ有意差が見られた($p < 0.001$)



A群の情報提供前後のHADSの合計点の分布

情報提供後は前と比べ不安が減少した！

結果：情報提供前後のHADSの比較

A(介入)群の情報提供前後の比較

HADSの各項目の情報提供前後の平均を比較⇒ウィルコクソンの符号順位検定

14項目中11項目で有意差

最も平均値に差があったのは、A5およびA11(0.84)

⇒これらの結果からも**不安が減少**していることが判明した

項目	情報提供前		情報提供後		p値
	Mean	SD	Mean	SD	
A1 緊張状態に追いやられる	1.90	0.70	1.19	0.65	.0001**
A3 何か悪いことが起こりそうな怯えた気もちになる	1.29	0.59	1.00	0.63	.0352*
A5 心配事が頭の中を駆け巡る	1.97	0.75	1.13	0.72	.0001***
A7 座って楽になり、リラックスすることができる	2.06	0.57	1.26	0.63	.0001***
A9 胃が気持ち悪くなるような、恐ろしい感じがする	0.94	0.63	0.45	0.68	.0012**
A11 落ち着かず、そわそわする	1.84	0.58	1.00	0.73	.0001***
A13 いきなりパニックになる	0.71	0.78	0.42	0.67	.0195*
D2 かつて楽しんでいたことを今も楽しんでいられる	1.65	0.75	1.39	0.72	.0078**
D4 何かに笑ったり、おもしろい部分に気付くことができる	1.84	0.58	1.65	0.71	.1992
D6 楽しい気分になる	2.23	0.56	1.81	0.65	.0056**
D8 ゆっくり速度をおとしたような気分になる	1.16	0.52	1.13	0.43	1.000
D10 自分の容姿を気にしなくなる	0.97	0.55	0.97	0.71	1.000
D12 物事に楽しみをもつことができる	2.03	0.55	1.45	0.62	.0001***
D14 本やテレビ番組を楽しむことができる	1.65	0.75	1.13	0.76	.0001***
各項目の合計点	22.23	5.04	15.97	5.65	.0001***

*p<0.05, **p<0.01, ***<0.001

結果：情報提供前後のHADSの比較

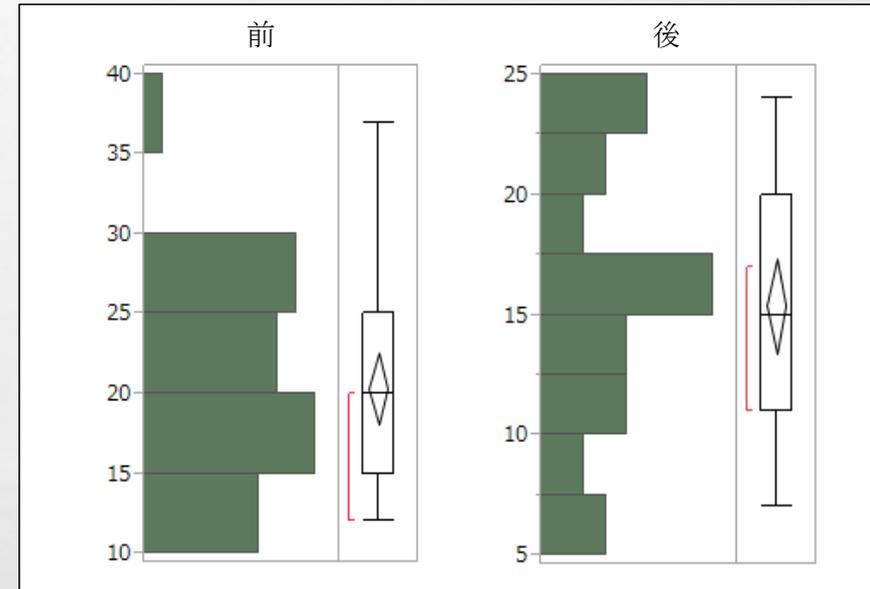
B(対照)群の情報提供前後の比較

最高値を42点とした時、

情報提供前の合計点の
平均値は 21.26, 標準偏差は6.04

情報提供後の合計点の
平均値は16.10, 標準偏差は5.51

情報提供前後の合計点について
ウィルコクソンの符号順位検定を
行ったところ有意差が見られた($p < 0.001$)



B群の情報提供前後のHADSの合計点の分布

情報提供後は前と比べ不安が減少した！

結果：情報提供前後のHADSの比較

B(対照)群の情報提供前後の比較

HADSの各項目の情報提供前後の平均を比較⇒ウィルコクソンの符号順位検定

14項目中9項目で有意差

最も平均値に差があったのは、A5(0.80)

⇒これらの結果からも**不安が減少**していることが判明した

項目	情報提供前		情報提供後		p値
	Mean	SD	Mean	SD	
A1 緊張状態に追いやられる	1.87	0.76	1.10	0.65	.0001**
A3 何か悪いことが起こりそうな怯えた気もちになる	1.23	0.80	0.87	0.50	.0486*
A5 心配事が頭の中を駆け巡る	1.90	0.87	1.10	0.83	.0001***
A7 座って楽になり、リラックスすることができる	2.03	0.66	1.29	0.69	.0001***
A9 胃が気持ち悪くなるような、恐ろしい感じがする	0.81	0.87	0.61	0.56	.1719
A11 落ち着かず、そわそわする	1.84	0.93	1.10	0.75	.0001***
A13 いきなりパニックになる	0.90	0.86	0.55	0.71	.0098**
D2 かつて楽しんでいたことを今も楽しんでいられる	1.48	0.68	1.26	0.68	.1185
D4 何かに笑ったり、おもしろい部分に気付くことができる	1.68	0.65	1.55	0.72	.2111
D6 楽しい気分になる	2.23	0.62	1.84	0.58	.0018**
D8 ゆっくり速度をおとしたような気分になる	0.97	0.55	1.13	0.72	.3018
D10 自分の容姿を気にしなくなる	1.06	0.81	1.10	0.83	1.000
D12 物事に楽しみをもつことができる	1.90	0.70	1.55	0.77	.0059**
D14 本やテレビ番組を楽しむことができる	1.35	0.91	1.06	0.68	.0332*
各項目の合計点	21.26	6.04	16.10	5.51	.0001***

*p<0.05, **p<0.01, ***<0.001

結果：情報提供前後のHADSの比較

A(介入)群とB(対照)群間の情報提供後の比較

A群とB群の情報提供後のHADSの合計点の比較⇒ウィルコクソンの順位和検定

合計点に差が見られなかった

各項目を比較しても差がみられなかった(A9は $p=0.1535$ であり、今後検討が必要)

A群とB群の情報提供後の不安に差は見られなかった・・・

項目	A 群		B 群		p 値
	Mean	SD	Mean	SD	
A1 緊張状態に追いやられる	1.19	0.65	1.10	0.65	.7881
A3 何か悪いことが起こりそうな怯えた気持ちになる	1.00	0.63	0.87	0.50	.4715
A5 心配事が頭の中を駆け巡る	1.13	0.72	1.10	0.83	.8906
A7 座って楽になり、リラックスすることができる	1.26	0.63	1.29	0.69	.7902
A9 胃が気持ち悪くなるような、恐ろしい感じがする	0.45	0.68	0.61	0.56	.1535
A11 落ち着かず、そわそわする	1.00	0.73	1.10	0.75	.5826
A13 いきなりパニックになる	0.42	0.67	0.55	0.71	.4141
D2 かつて楽しんでいたことを今も楽しんでいられる	1.39	0.72	1.26	0.68	.5061
D4 何かに笑ったり、おもしろい部分に気付くことができる	1.65	0.71	1.55	0.72	.6591
D6 楽しい気分になる	1.81	0.65	1.84	0.58	.7963
D8 ゆっくり速度をおとしたような気分になる	1.13	0.43	1.13	0.72	.9447
D10 自分の容姿を気にしなくなる	0.97	0.71	1.10	0.83	.6448
D12 物事に楽しみをもつことができる	1.45	0.62	1.55	0.77	.5979
D14 本やテレビ番組を楽しむことができる	1.13	0.76	1.06	0.68	.8041
各項目の合計点	15.97	5.65	16.10	5.51	.6616

* $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

基本情報

分析するにあたり

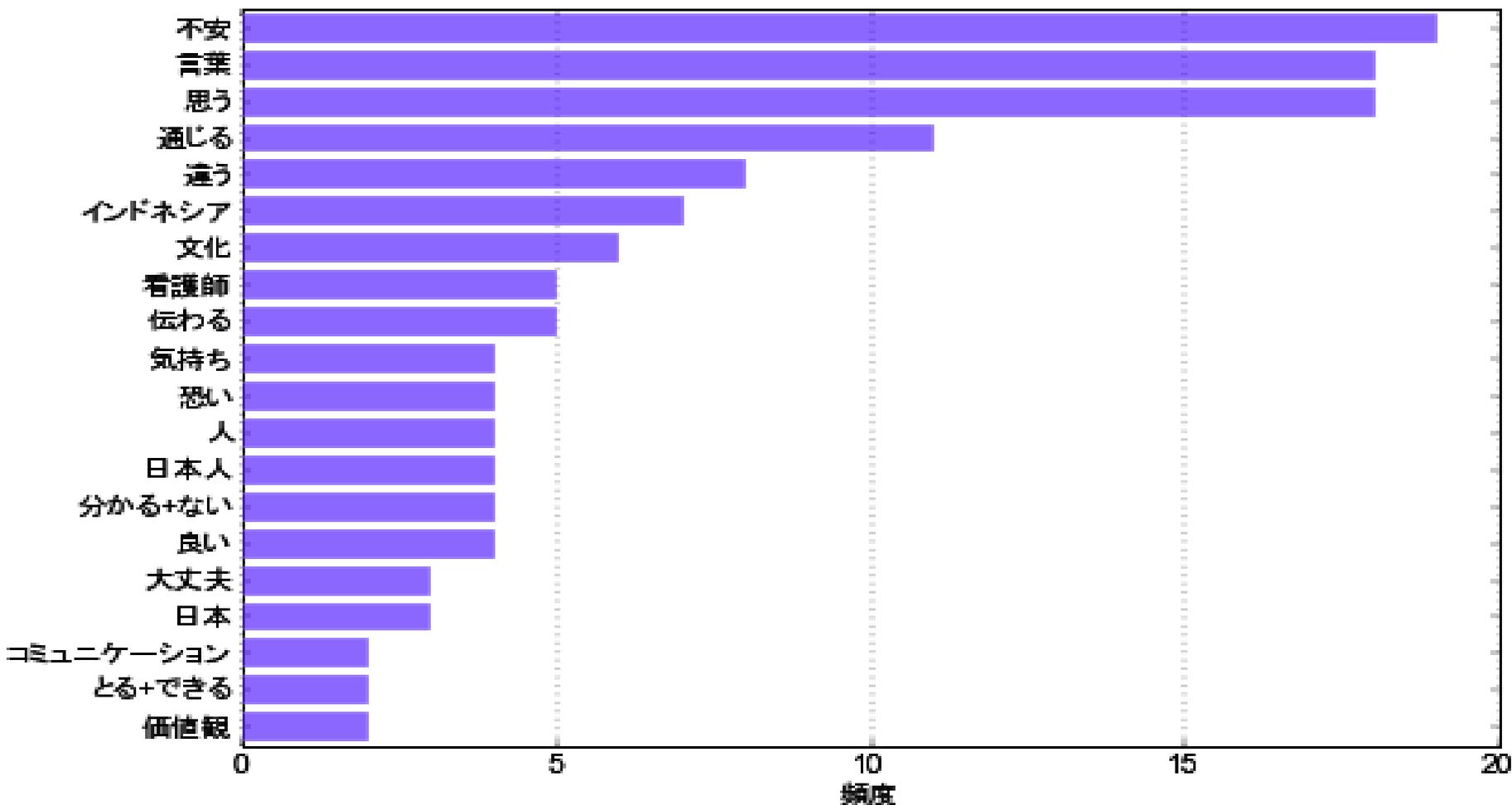
- 「思う」と「感じる」は類義語とみなし「思う」に統一
- 「言葉」と「日本語」は同義とみなし類義語として「言葉」に統一
⇒原文で「言葉」という単語が出てくる際は全て「日本語」の意で使用されていたため
- ことばネットワークは、1文章中に同一単語が3回以上出現するテキストに限定して分析

A群およびB群の介入前後の自由記述の基本情報

	回答率	総行数	総文数	平均文長	平均行長	延べ単語数	単語種別数
A群介入前	100%	31	64	28.6	13.9	347	148
A群介入後	83.9%	26	33	30.5	38.8	396	203
B群介入前	100%	31	72	27.8	27.8	317	157
B群介入後	96.8%	62	30	37.4	37.4	436	198

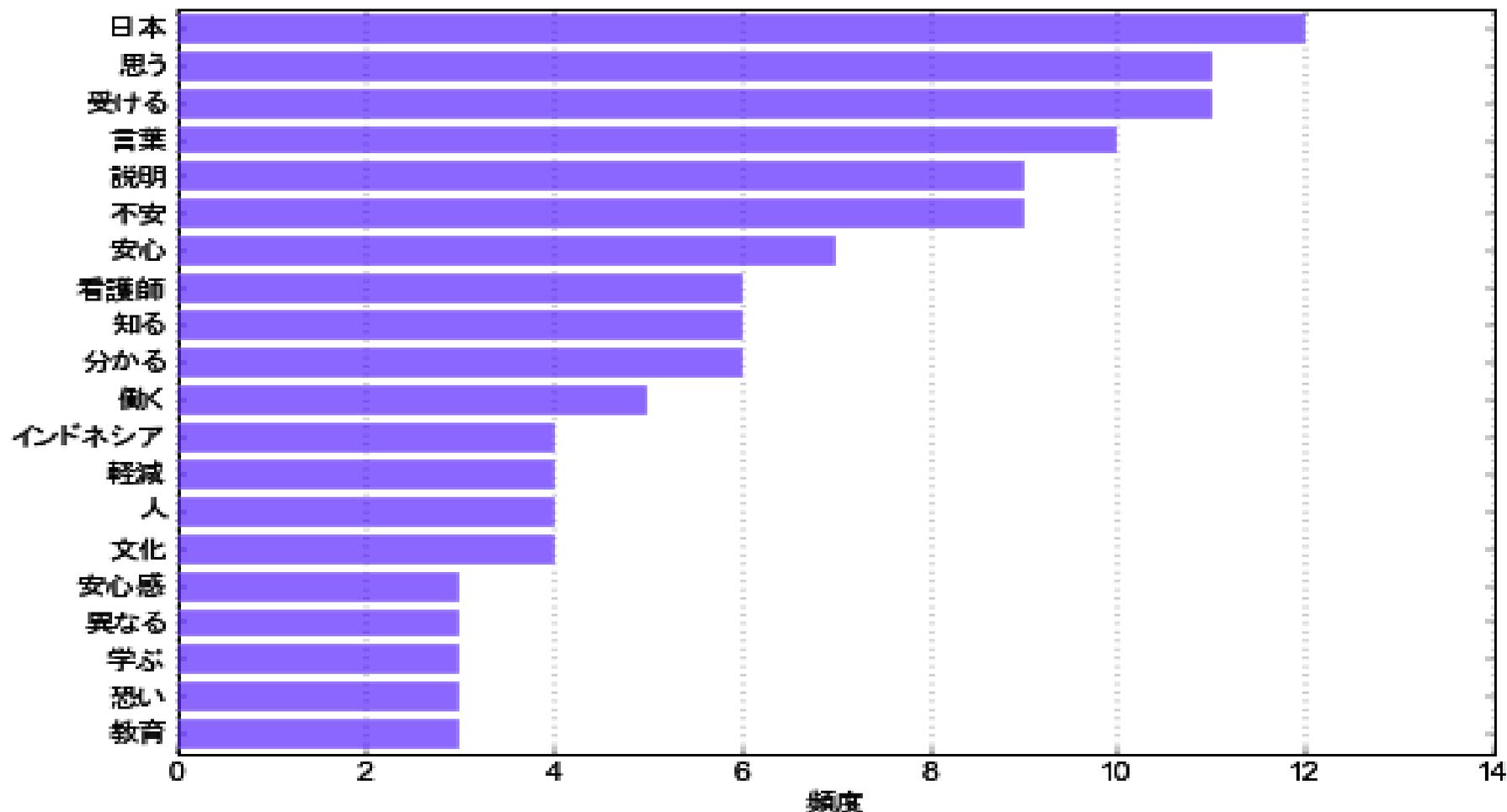
結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供前の自由記述の単語頻度解析の結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供後の自由記述の単語頻度解析の結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供前後の自由記述の単語頻度解析の比較

情報提供前

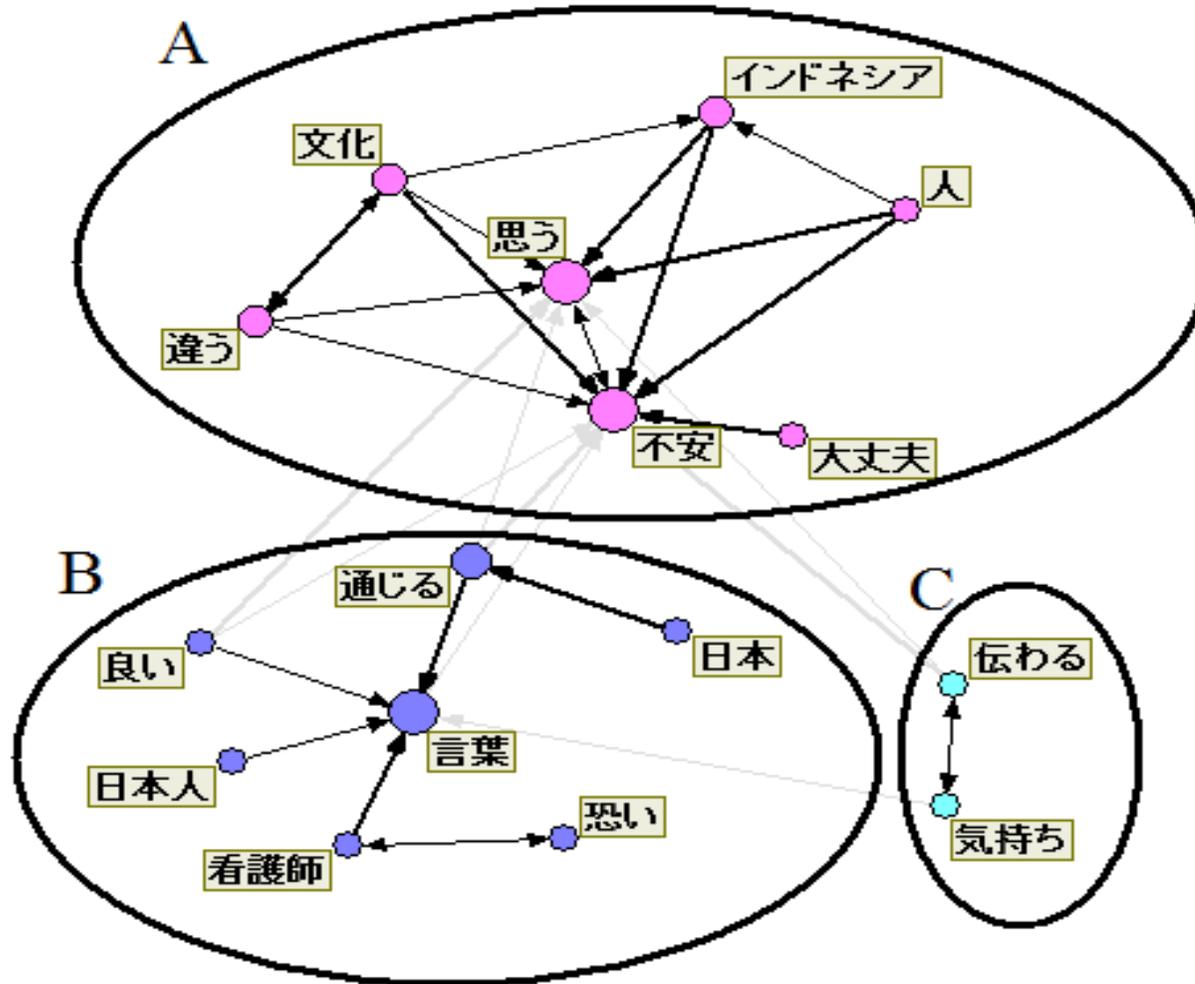
- ◆「不安」という単語が最も多くみられた
- ◆次に「言葉」、「思う」という単語が多くみられた
⇒このことから、調査対象者の多くは、言葉が通じるか、ということに不安を感じていることが推察される

情報提供後

- ◆「日本」という単語が最も多くみられた
- ◆次に「思う」、「受ける」という単語が多くみられた
⇒このことから、説明の内容が対象者の印象に残ったことが推察される

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供前の自由記述のことばネットワークの結果



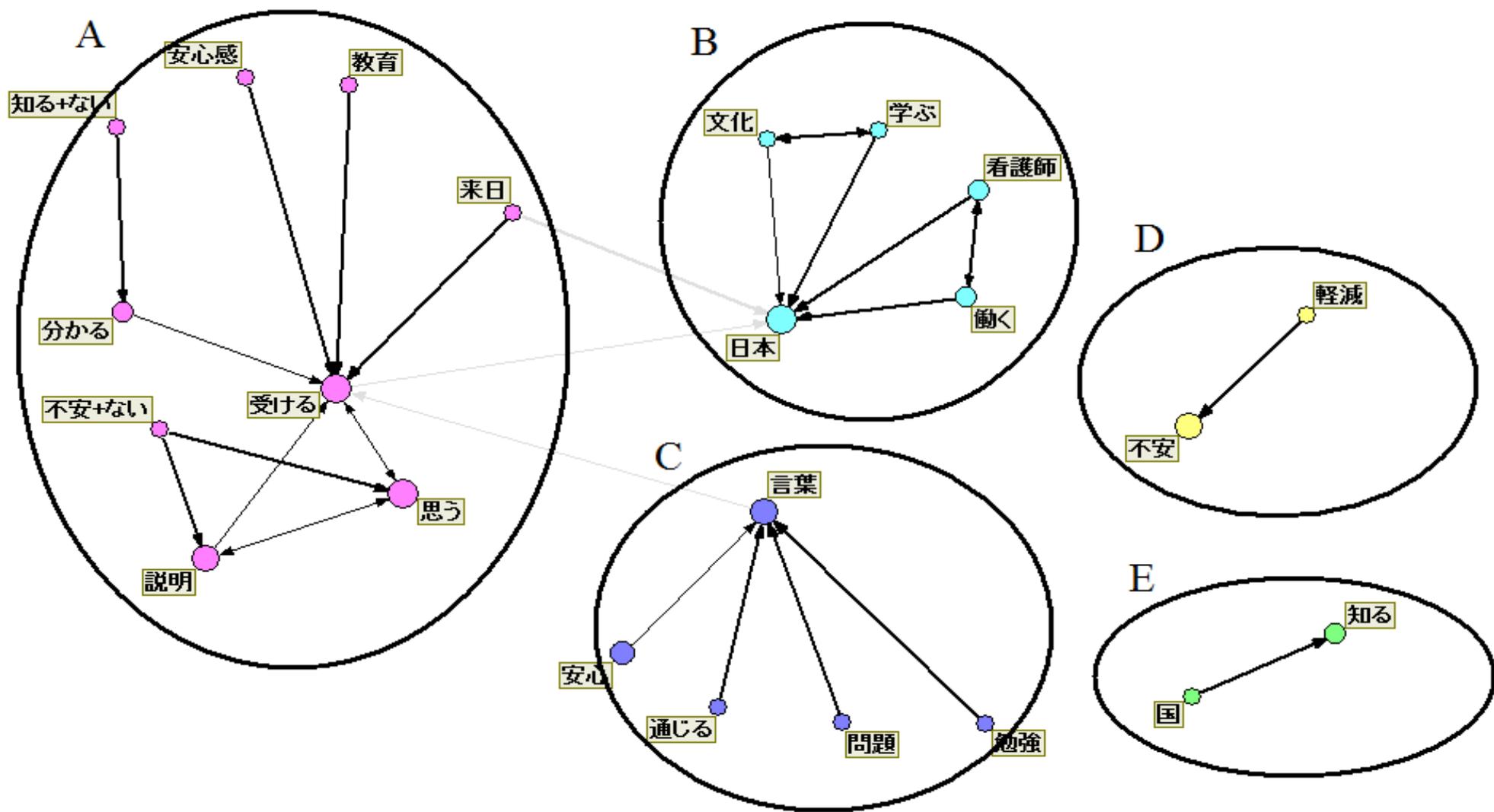
結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供前の自由記述のことばネットワークの結果

- ◆A: 文化が違うことを不安に感じることの意味を反映
原文:「文化が違うのでいろいろと不安」
「インドネシアの人なのに意思疎通はできるのか不安に思う」
- ◆B: 言葉が通じるのか懸念していることの意味を反映
原文:「言葉が通じるのか」
「言葉が通じないが、日本人看護師と同じように接してもらえるか」
- ◆C: 気持ちが伝わるか懸念していることの意味を反映

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供後の自由記述のことばネットワークの結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供後の自由記述のことばネットワークの結果

◆A: 教育を受けていることで安心したことの意見の反映

原文:「説明を受ける前と比べて安心感が出た」

「教育を受けていることがわかって安心した」

◆B: 日本で研修を受けていることの意見の反映

原文:「きちんとした教育を受けて日本に来ているのが印象的だった」

「文化は違っても日本で技術や知識を学んできているので怖いという印象はなくなった」

◆C: 言葉が通じるので安心したことの意見の反映

原文:「日本語を勉強しているので安心した」

「言葉が通じるので安心した」

◆D: 不安が軽減したことの意見の反映

◆E: その国を知ったことの意見の反映

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

A(介入)群の情報提供前後の自由記述のことばネットワークの比較

情報提供前

- ◆文化の違い，言葉の違いによる不安の意見がみられた

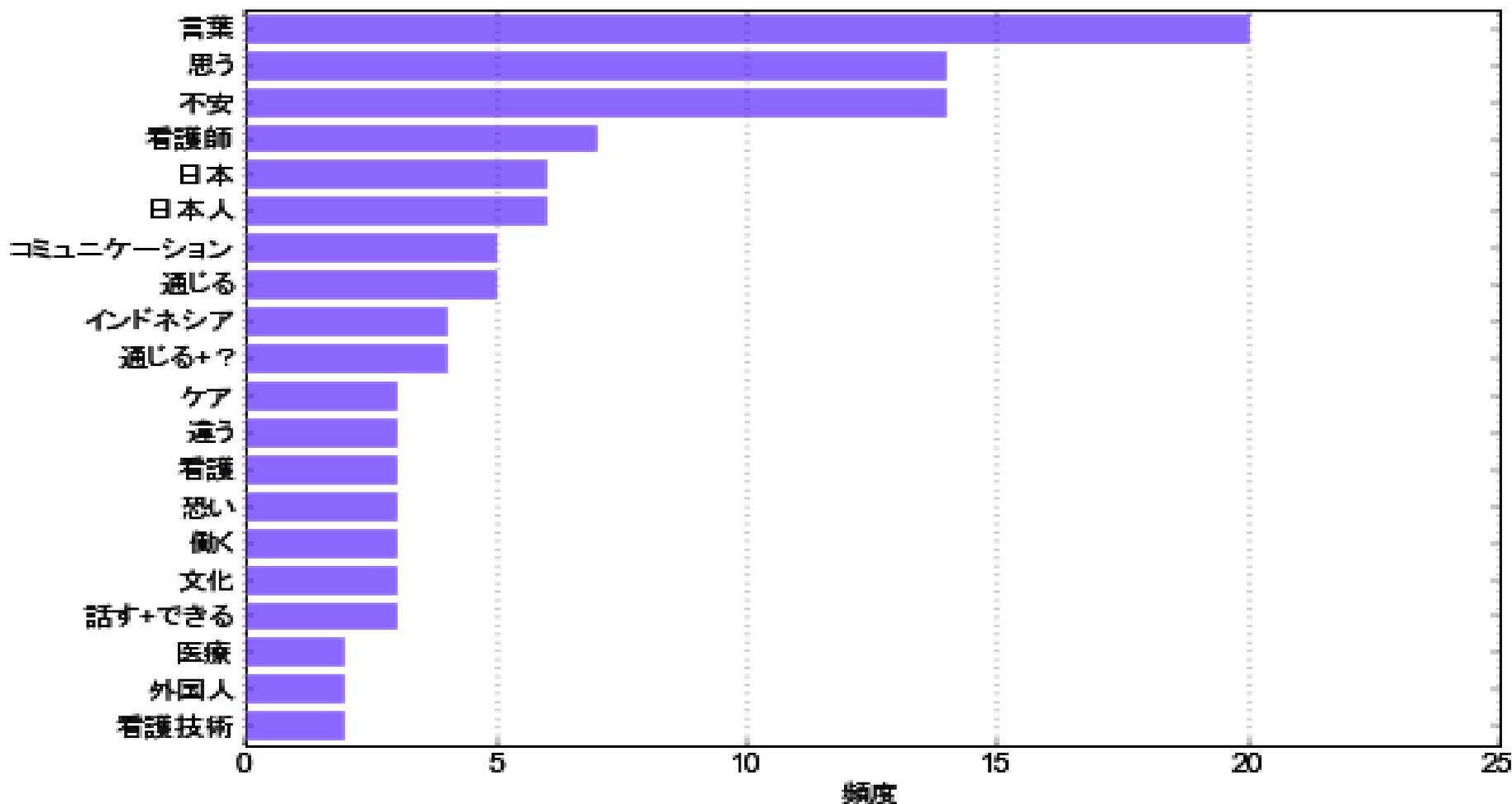
情報提供後

- ◆教育を受けていること，日本で研修を受けていること，言葉が通じることの情報により安心を得たという意見がみられた

⇒情報提供前は外国人看護師の背景が不明であり不安があったが，情報提供後は外国人看護師について知識を得ることで不安が軽減したと推測される

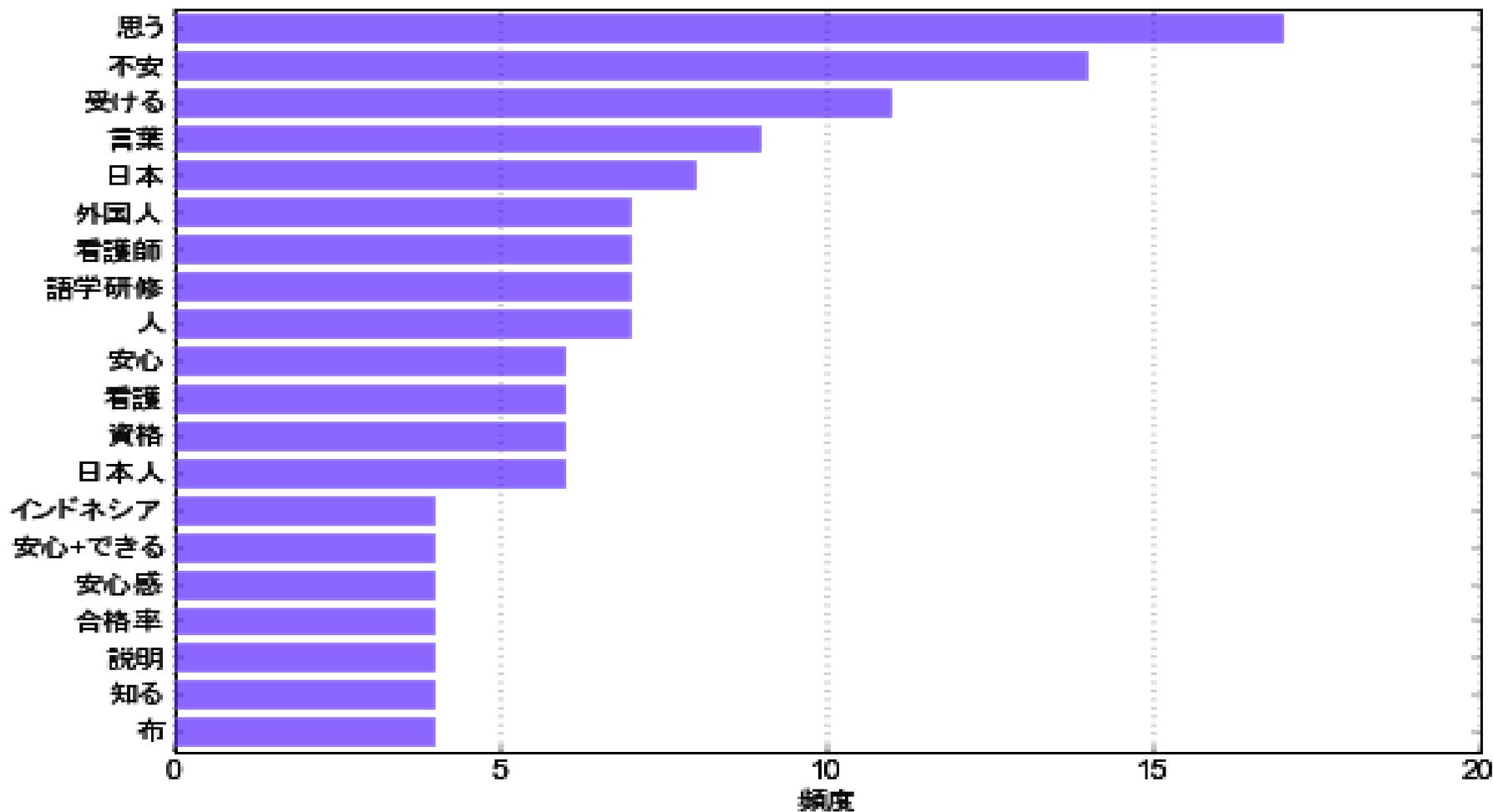
結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供前の自由記述の単語頻度解析の結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供後の自由記述の単語頻度解析の結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供前後の自由記述の単語頻度解析の比較

情報提供前

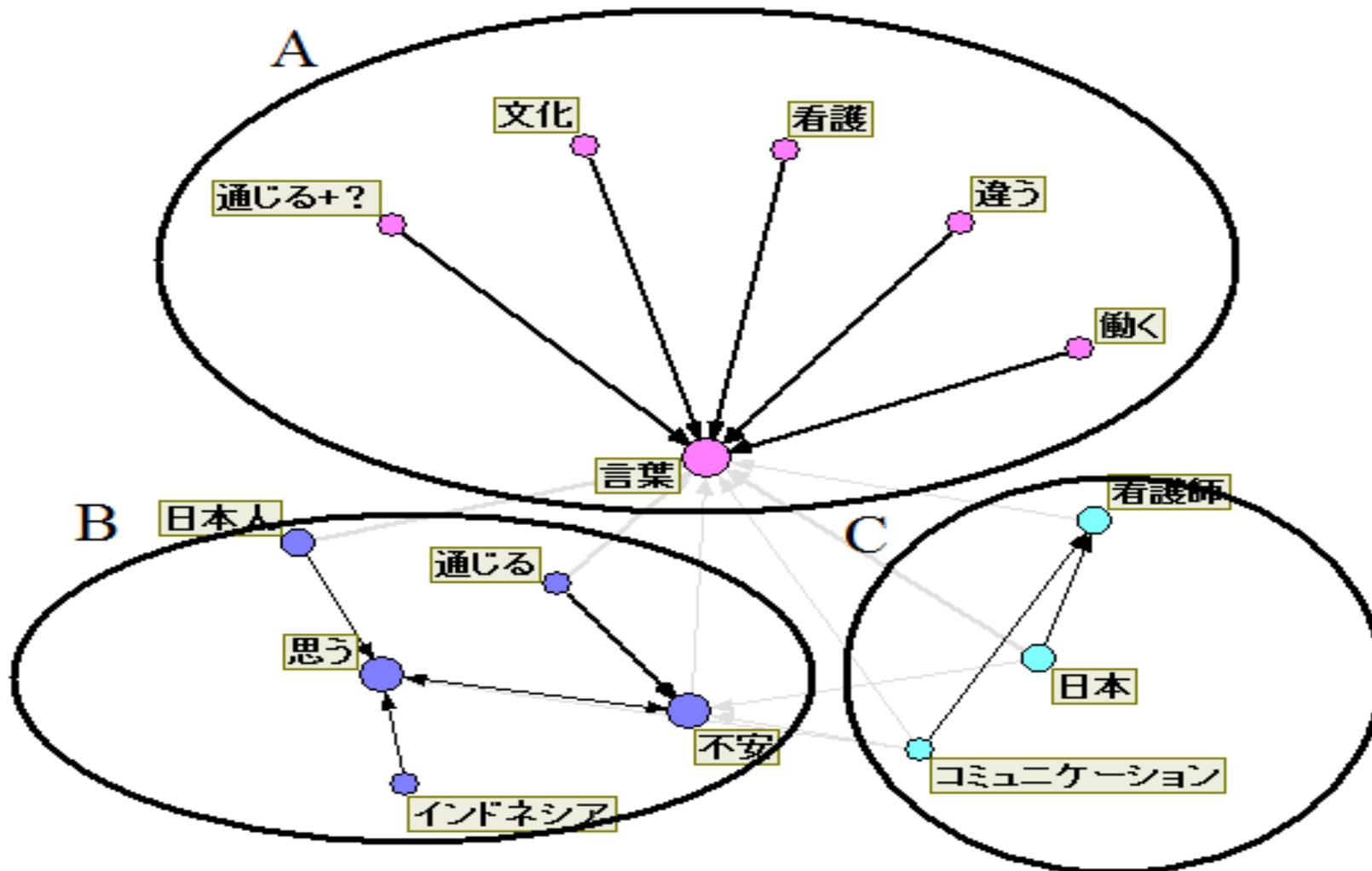
- ◆「言葉」という単語が最も多くみられた
- ◆次に「思う」、「不安」という単語が多くみられた
⇒このことから、調査対象者の多くは、言葉が通じるか、ということに不安を感じていることが推察される

情報提供後

- ◆「思う」という単語が最も多くみられた
- ◆次に「不安」、「受ける」という単語が多くみられた
⇒「不安」の単語の原文を見ると14人中7人が不安が減少したという意見だった
一方で、「自分の意志や伝えたいことがちゃんと伝わるのか、不安などを十分に傾聴してもらえるのかといった、言語的な部分に不安を感じる。」といった意見もみられた

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供前の自由記述のことばネットワークの結果



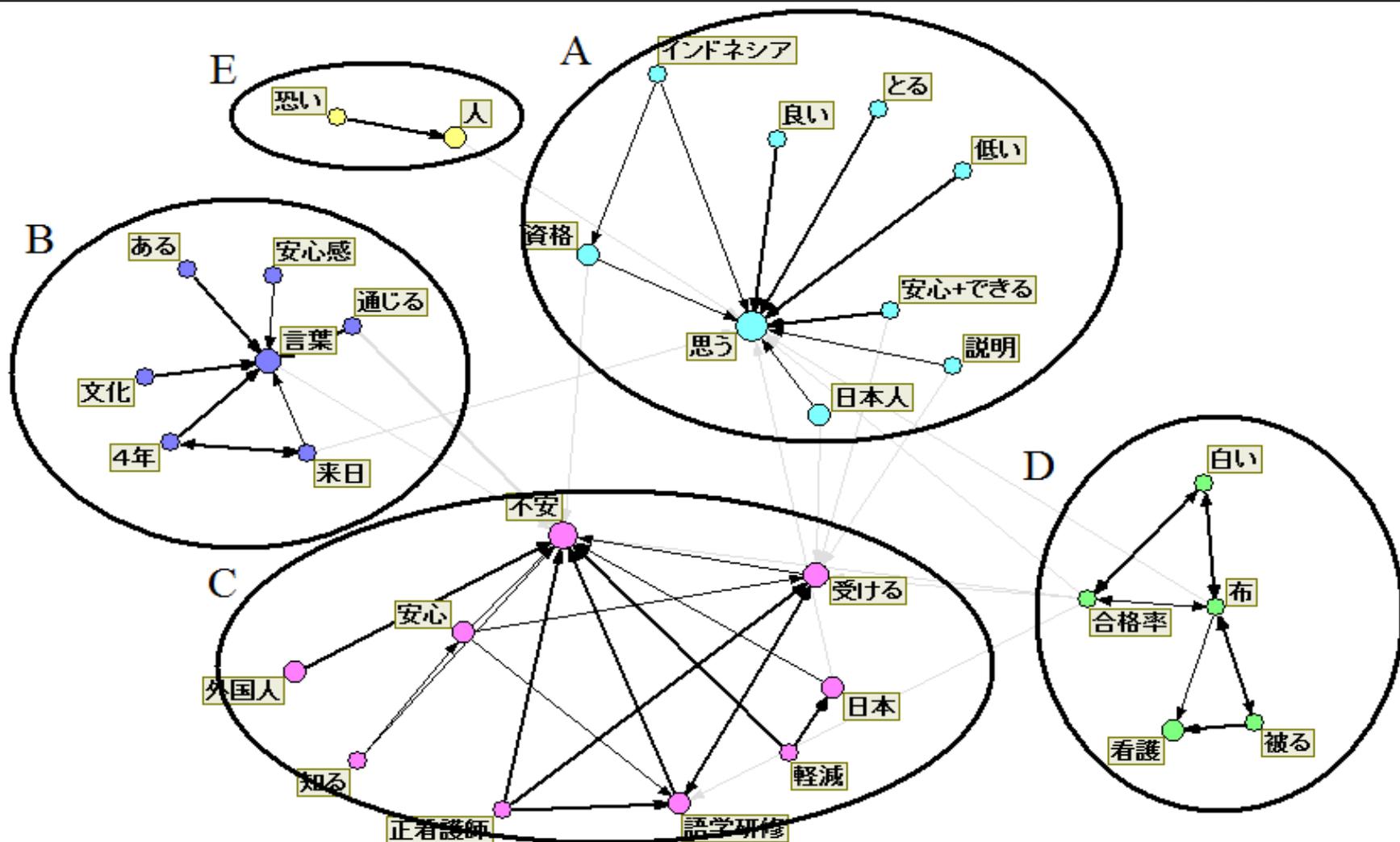
結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供前の自由記述のことばネットワークの結果

- ◆A: 文化や言葉の違い, 看護について不安に感じることの意見を反映
原文: 「言葉の違いについて不安を感じる」
「文化が違うがちゃんとケアを受けられるだろうか」
「ちゃんとした看護をしてもらえるのか不安」
- ◆B: 外国人であることへの不安の意見を反映
原文: 「今まで日本人看護師にしか会ったことがないため不安を感じる」
「言葉が通じるのか不安」
- ◆C: 技術やコミュニケーションがとれるかの懸念を反映している

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供後の自由記述のことばネットワークの結果



結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供後の自由記述のことばネットワークの結果

- ◆A: 資格を持っていることで安心できることの意見の反映
原文:「正看の資格を持っていると、凄い人なのかなと思い安心できる」
「日本の資格を取得したり, 語学研修を受けていると安心」
- ◆B: 日本語が通じることで安心感がもてることの意見の反映
原文:「日本語がちゃんと通じそうで安心した」
「来日して4年ということなら日本語も通じるだろうし安心できる」
- ◆C: 語学研修を受けていたり, 正看護師であることで不安が軽減することの意見の反映
原文:「日本で教育を受けているということから不安が少し軽減した」
「語学研修を受けていることから不安がやわらいた」
- ◆D: 白い布が気になることの意見の反映
- ◆E: どんな人物なのかということの意見の反映

結果：情報提供前後のTEXT MINING STUDIO 5.0を使っての分析

B(対照)群の情報提供前後の自由記述のことばネットワークの比較

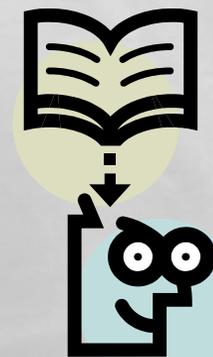
情報提供前

- ◆文化や言葉の違い，外国人であることによる不安の意見がみられた

情報提供後

- ◆資格を持っていること，日本で研修を受けていること，言葉が通じることの情報により安心を得たという意見がみられた

⇒情報提供前は外国人看護師の背景が不明であり不安があったが，情報提供後は外国人看護師について知識を得ることで不安が軽減したと推測される



考察

◆不安が軽減した要素

A群

看護教育を受けていること, 日本で研修を受けていること,
日本語を学んでいることが不安の軽減に寄与したと考えられる.

B群

資格を持っていること, 日本語を学んでいることが不安の軽減に
寄与したと考えられる.

◆A群とB群の比較

★日本語を学んでいること, 教育を受けていることが
両群の不安を軽減していると考えられる.

⇒これらのポイントとなる情報が, 対象者の印象に残ったため
情報量に関わらずA群とB群で不安が軽減し,
差が見られなかった可能性がある

★ことばネットワークで「安心感」という単語に注目すると,
A群のほうが, B群よりも矢印が太く, 関連が強い

⇒A群のほうが安心感をより得た可能性を示唆

結論

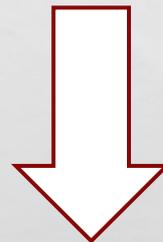
仮説

HADSによる統計学的分析では

1. A群, B群どちらも不安が軽減する. ⇒情報提供と関連があった
2. A群はB群よりも不安が軽減する. ⇒関連が得られなかった

自由記述によるText Mining Studio 5.0の分析では,

- ◆A群とB群の不安軽減に繋がる情報が判明⇒語学研修, 教育, 資格
- ◆A群とB群でHADSに差はなかったが, 言葉ネットワークで「安心感」という単語はB群よりも線が太く, より安心感を得た可能性



今後は, より効果的に不安を軽減する情報の内容を検討

文献

- Arnstein, M., Eystein S., Alv, A. D (2001). Hospital Anxiety and Depression (HAD) scale: factor structure, item analyses and internal consistency in a large population, *The British Journal of Psychiatry*, 540-544.
- Duronto, M. Patricia, 西田司, 中山伸一(2004). 日本に於ける日本人の初対面の人々のコミュニケーションに関する研究, *図書館情報メディア研究*, 2(2), 1-12.
- 外務省(2013). インドネシア共和国, 2014年4月15日, 引用 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/>
- 東あかね, 八城博子, 清田啓介, 井口秀人, 八田宏之, 藤田きみゑ他(1996), 消化器内科外来における hospital anxiety and depression scale(HAD尺度)日本語版の信頼性と妥当性の検討, *日本消化器学会雑誌*, 93(12), 18-26.
- 株式会社NTT データ数理システム(2014). Text Mining Studio 5.0 マニュアル, 176-252.
- 厚生労働省(2011). インドネシア・フィリピンの看護教育・資格制度・海外派遣の概要, 2014年4月15日, 引用 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001ycxb-att/2r9852000001yd83.pdf>
- 松永景道(2014). 比の女性 看護師合格, *中国新聞朝刊*2014年4月2日, 広島.
- 宮野真理子, 丹野かほる(2008). 外国人看護師受け入れに関する研究ー外来受診者の外国人看護師からケアを受けることに対する意識調査ー, *看護総合*, 104-106.
- 総務省(2013). 外国人の受け入れ対策に関する行政評価・監視, 2014年4月15日, 引用 http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/73055.html
- 高松潔, 武者稚枝子, 太田博明, 中村健二(2001). 婦人科入院患者におけるメンタルヘルスーHADS(Hospital Anxiety and Depression Scale)を用いた検討, *日本女性心身医学会雑誌*, 6(2), 260-267.
- 竹内美佐子(2011). 外国人看護師に対する患者, 家族の意識調査, *看護展望*, 36(8), 71-77.
- 宇品愛弓(2011). 外国人看護師からケアを受ける際の日本人の心情, 2014年7月31日, 引用 http://www.msi.co.jp/tmstudio/stu11contents/stu11_08.pdf